

街なみづくりのルールと地域の工夫

①建物の高さ、②壁面位置、③建築意匠、④色彩、⑤看板、⑥設備・機器類の6つで基準を設け、これを守ることが「八幡らしさ」であるとの合意のもとに、細かいデザインなどは地区ごとに考えることとしました。各町内の整備は、「まちづくりルール」と整合を図り、ワークショップに町のなかの専門家（大工・工務店）が参加しました。町のなかの専門家は、町の人たちの意見や要望にそって楽しいアイデアや具体案を「八幡中央区域街環代表者会議」に提案し、外部の専門家も含めて検討、最終的に町なかと外部の専門家が共同で設計し、プロジェクトを推進しました。

ワークショップ

みんなで芹橋を住みたくなるまちに

ワークショップでは、芹橋二丁目がどんな町になったら「住みたくなるまち」になるか、次に「住みたくなるまちに必要なものはなにか」を参加者が付箋に書き出し、コーディネーターの笠原啓史さんがまとめ、講師の松井さんが講評しました。



「住みたくなるまち」、「そのまちに必要なもの」

「住みたくなるまち」では、

- 1、子どもが外でにぎやかに遊ぶまち
- 2、活気があってまちの人同志で話ができるまち
- 3、まちかどがきれいなまち
- 4、火災や地震に強い安全なまち
- 5、人が訪れてくれるまち となりました。

「住みたくなるまちに必要なもの」は、

- 1、若者、子ども、お年寄りが集える場所づくり、若者の仕事と仕事場づくり、託児所づくり
- 2、お祭り、あいさつ運動、コミュニティ活動
- 3、ブロック塀を板塀に、空地を公園に、側溝の整備、道路を敷石と色舗装に
- 4、1つの町筋に一つの消火栓整備、空地を防災広場に、自動車の転回場・集合駐車場の整備
- 5、個人観光客を誘導する、足軽資料館をつくる、空き家を回収してゲストハウスをつくるなどがあげられました。

彦根に欠けている行政との協働の「仕組み」

講評で松井さんは、「市民は新聞の発行や足軽屋敷の管理などレベルが高い。NPOも「まちづくり憲章」で頑張っている。しかし、専門家であるNPOが行政とつながっていない。市民を、行政と専門家（NPO）が支える「仕組み」が欠けている」と指摘されました。

たしかに越前大野や郡上八幡と比べて、彦根には行政との協働の仕組みがありません。「まちづくり」には行政と市民、専門家の協働が不可避です。

3者が「まちづくり協議会」をつくることで、市民の意見を行政の計画に集約し、行政も街なみ環境整備や専門家派遣、歴史まちづくりなどの国の事業を活用して市民参加のまちづくりを実現する「仕組み」ができます。なお、景観法では専門NPOに市民と行政の協働の調整役を期待しています。

NPO法人 彦根景観フォーラムのご案内

彦根景観フォーラムは、まちの景観づくりを楽しむNPOです。大学教員、建築家、市民、商店主、公務員などが集まり、知恵と力を合わせて活動しています。様々な情報を事務局までお寄せ下さい。

●ブログ <http://hikone-keikan.seesaa.net/>

●定例会 毎月第3金曜日 午後7時～9時 滋賀大学陵水会館 誰でも自由に参加できます。

●お問合せ：彦根景観フォーラム事務局 TEL 080-1416-5968 FAX 0749-27-1431

E-mail: hikonekeikan@hotmail.com まで



きらっと彦根 vol.45

彦根の魅力 ★ 再発見

彦根まちづくり誌 2016年12月28日 通巻45号 編集/発行 NPO 法人 彦根景観フォーラム

「河原町芹町美しいまちづくり委員会」がスタート

平成28年9月25日(日)、「河原町芹町美しいまちづくり委員会」の設立総会が、芹町の小財記念館「芹町会館」で開催されました。

これは、3年前に都市計画決定の変更と伝統的建造物群保存地区への設定をめざして同名の委員会が有志で設けられていましたが、本年7月に彦根市の河原町芹町地区が国の重要伝統的建造物群(重伝建)保存地区に選定されたことを受け、伝統的なまちなみの保存と地域の活性化を住民が一体となって進める母体として、新たに規約を定め、役員には地区内の4自治会の会長が加わり、地域代表組織として再スタートすることになったものです。

総会には約20人が出席し、発起人の力石寛治氏を会長に選任するとともに、2名の副会長と2名の監事、4名の推進委員、さらに企画事業部長1名と広報総務部長1名の新役員を選出しました。

また、柴田いづみ滋賀県立大学名誉教授、彦根景観フォーラムの堀部栄次副理事長、花しょうぶ通り

商店街振興組合の小川睦博理事長ら3人に顧問への就任を依頼し、了承されました。

今後の活動計画として、来年度以降に本格化する伝統的建造物の保存修理やそれ以外の建物などの修景事業、防災を含む周



辺環境整備事業などのまちなみ保存に関する相談活動や研究会活動、来訪者へのガイド活動、空き家活用の促進と移住・交流の促進、まちづくり情報誌の発行などをあげ、全会一致で承認しました。

11月5日(土) 多賀里の駅一圓屋敷の集い93

「布のおはなし」竹内綾子さん

11月3日~6日、「ちくちくQuilt倶楽部パッチワークキルト展」が開かれました。

5日には、「東京国際キルトフェスティバル」2015年日本キルト大賞・和の部門3位に選ばれた竹内綾子さんが、パッチワークによって甦る古い布への思いを語ってくださいました。



特集：彦根景観シンポジウム2016

コミュニティ・デザインで進める城下町彦根のまちづくり

ワークショップ ~ みんなで芹橋を「住みたくなるまち」に ~